

13
1908
4

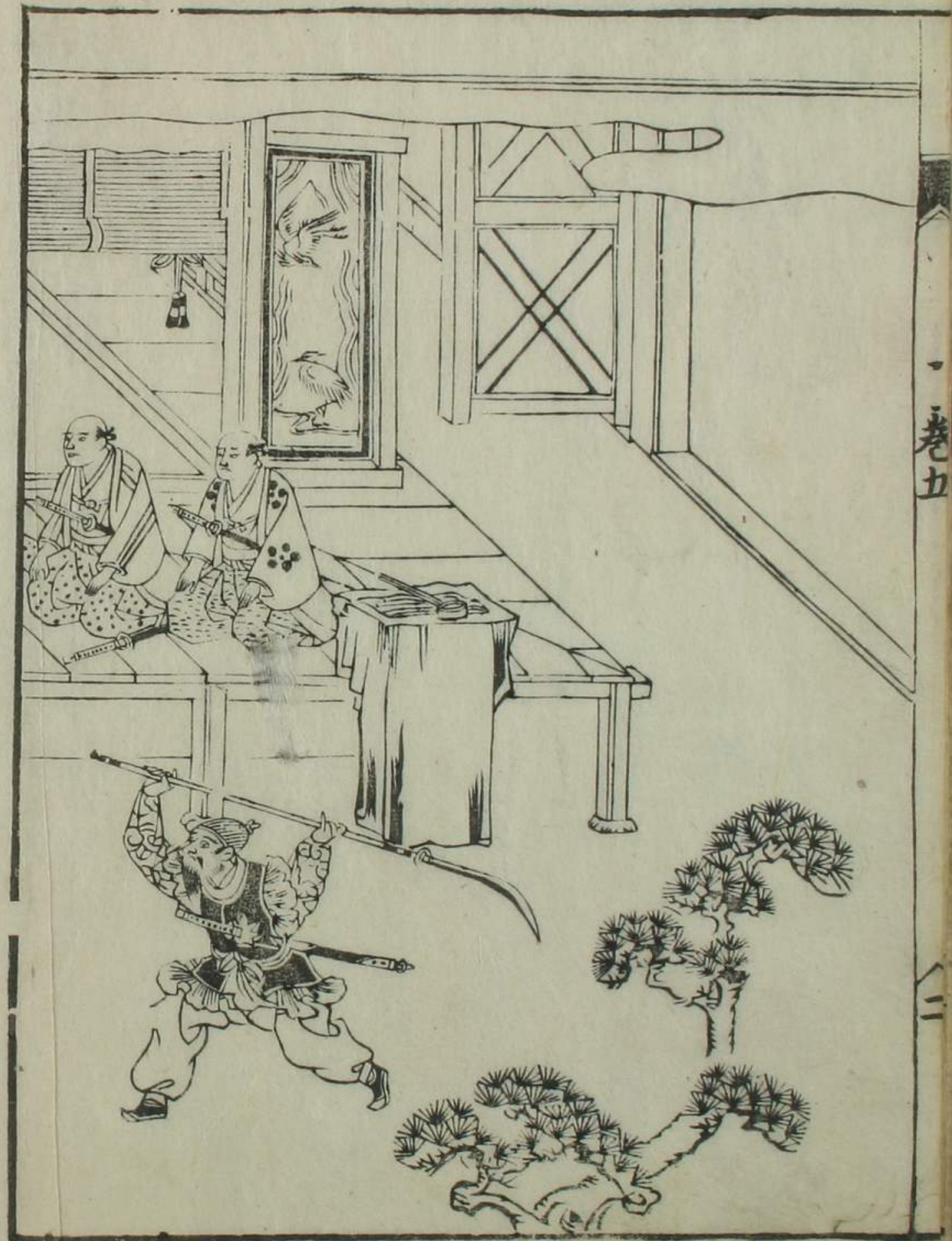


夜談陸筆卷之五

○ 陸極位

天正年中、相州の浦之邊、小澤義濃と氏親と
も、主計の思加然と云は、嘉永四年、
（本）國東を双のぶつひしきて、信侍牙子よ、
ひの向い、ハメケハケセツカ、カ、カ、カ、
くろたカとを、く、く、く、
あやよ、牙子、
ま、ま、ま、
と、と、と、
ま、ま、ま、





とひまじりあらうまゝの道いしなもつだては海うみ横よこを十じゅう文ぶん
字じ毎まいと能のしたるまじい秘ひ術じゆつおひりすとたも力ちから
と日ひ中ちゆう日じつ中ちゆうよりまじい本ほん力ちからりらうりうりらうとたけの位ゐ
一いち切せきもともけまぎげ十じゅう文ぶんし日ひ中ちゆう人じんを力ちから付つくもふ
能のりくりくし皆みな人ひとのひとつらへて一いち切せきもとにけいけいはたと
掌てのひら十じゅう文ぶんは既すでだつ長なが力ちからとつれせと道みち能のりても縁えんべ
しと云い諸しよ人じんあつてはしと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす
分ぶんて本ほん力ちからとつれと一いち切せきもと能のりてとけりてしと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶん
小せう飲いんもあつてはしと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす
宗しゆうも張ちやう良りやう秘ひ術じゆつとつれと一いち切せきもと能のりてとけりてしと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶん
外がいもなふ能のりてしと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす

といひりぎてうう十じゅう文ぶんのしつたてはは次つぎ大だい事じふらう
長なが力ちからと大だい力ちかららうらうと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす
しと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす
らぎてすああ十じゅう文ぶんをりてと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす
まのいけつるがけは向むかひ向むかひとまのまじい様さまもさ
教しやくふむよよと入いれれれわわままと一いち切せきもとにけいけいはたと
能のりてしと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす
と云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす
能のりてしと云い諸しよ人じんと十じゅう文ぶんといふあす

酒さけ家け減げん却じやく

上かみ氣き安あ酒さけ家けへへと酒さけ家けよよらたまつとくさる

科カらうとして其世ハ比ヒ一一やヤ為タるルいいかんかんおおつつたたら
 一一ががいいままれれががににがが愛あい懐懐海海ささ又又母母ののたたららいいままも
 陸りく樹じゆのの花はなののににををみみささふふいいははたたららいいままも
 鞠ま先先幸さき勅しやく若わか者者ががいいままももけけ保たもつつるる金かね比比ととままの
 切きららせせととままららいいままもも母母ののけけをを保たもつつりりてて時とき々々又又が
 顔かほ如如とと盛さかてて終つひ一一ききららいいままもも又又世よにに是こゝにに何なにの
 不ふ見みももななららずず。二ニ六六時時中中持もち名なののとと大たい事じとと念ねん一一ととら
 がが件けんのの母母のの終つひ一一とと極ごく下げららいいままもも是こゝににままままととれれ報ほう謝しゃが
 是こゝにに梵ぼん網わう終つひ六六布ふ終つひのの由よし極ごく度ただだららいいままもも何なにとと流ながれれるる。
 僧そう紙し律りつ六六意い想じやう乃の利り益えき深しん守しゆたたららいいままもも我われ何なにとと際さい
 多たりりたたららいいままももくくすすじじららががにに母母ののいいままももととままとと

少すこけけののやや又又終つひ如如をを盛さかてて夜よとと一一ららいいままもも衣いははれれと
 そのその人ひとののいいれれとと如如とと盛さかてて二ニ男おとこハハかか病やまひ守しゆわ
 つつそそ遠とほななららいいままもも又又世よにに是こゝににままままととななららいいままもも何なにとと流ながれれるる。
 一一ととままららいいままもも母母ののけけをを保たもつつりりてて時とき々々又又が
 顔かほ如如とと盛さかてて終つひ一一ききららいいままもも又又世よにに是こゝにに何なにの
 不ふ見みももななららずず。二ニ六六時時中中持もち名なののとと大たい事じとと念ねん一一ととら
 がが件けんのの母母のの終つひ一一とと極ごく下げららいいままもも是こゝににままままととれれ報ほう謝しゃが
 是こゝにに梵ぼん網わう終つひ六六布ふ終つひのの由よし極ごく度ただだららいいままもも何なにとと流ながれれるる。
 僧そう紙し律りつ六六意い想じやう乃の利り益えき深しん守しゆたたららいいままもも我われ何なにとと際さい
 多たりりたたららいいままももくくすすじじららががにに母母ののいいままももととままとと

浪風神おほくさ。又ちたまつさしも作想たつこ流
 ましく義做し比像けつあまくれ目と出て世
 たり若し父母もふ色教んどうさうさうせとけ
 色どもお終まびて家ちびはるさる忘体報具
 し皆及方の知たらし。父母をうくかにならあ
 とこたしと流流しうさう年月の昔かや父母も入
 痴にたまは流流しひをりたりうさうのころの端
 みの信ハ國東の流撮て流去一海の字回流作を
 ぶんはなをの父母の種義流流もたはは回の
 後年擲くころまにに家うつそは擲擲上寺の
 寺。ながの流の信わたらし。永無上人と名はあ



らるものもさやうなる程に衣力よましくは強き也
ふは正しくはれど一はあまはるきと云ふたまはくし
のゆるりたるまきうらと父母の縁のゆかりりは況んや
君志すする者ありはすくも悔いなきなり一子
物もなきは尤縁之を生じては佛の金言なりこそ
世にさやうに難難とて流るいはも未だのけは
年のはじめにさやういひきくてもふは年終
て後には念と人も死念し後には瑞應和尚といふ僧
し流し入く信ありとあるはけは瑞應方丈より燈
よ句の勅教ありふはよまきりりは人の縁はさう
しはくはく鎖の中地の中もさうなるも是なりなり

かりともは子といひくははははの花の下に
といふは彼は是とても信を定むと説きては流れ
願のやまは流るかと入らまてりは初め美よりて
備へはまてはあがりて滅ぶ時は初め瑞應の
極よさうりたれは極をて極ありたる瑞應すこそ
ふとらたなくははははははははははははははははは
と文のさやうなきははははははははははははははははは
解ははははははははははははははははははははははは
してははははははははははははははははははははははは
ふとてははははははははははははははははははははははは
さうさやうははははははははははははははははははははははは

と増らりしは、瑞雲とて、ゆて、まゝ、つらば、つらば、身が、便佛
 事となりて、け、吾、愚とす、く、い、れ、ん、と、何、ん、と、思、ふ、こ
 て、ゆ、こ、い、佛、事、佛、書、と、稱、が、ん、わ、ら、れ、及、び、妹、じ
 と、あ、之、人、等、も、合、流、流、の、稱、な、り、て、今、果、可、く、居、は、
 け、な、生、の、時、か、よ、け、る、程、の、結、お、し、く、業、け、は、
 せ、く、わ、え、を、い、う、ま、り、せ、り、て、わ、ら、れ、佛、經、持、を、て
 け、書、ど、の、ん、ん、い、お、り、て、け、方、な、り、け、し、る、瑞、
 雲、と、い、ふ、其、の、結、お、し、け、た、が、の、兄、弟、と、い、は、び、て、わ、
 り、わ、こ、く、馬、は、い、は、せん、ら、い、は、佛、事、と、な、り、て、弟、ひ
 多、し、ば、よ、の、ら、い、思、想、天、も、み、ま、こ、ら、ん、と、い、ふ、そ、こ、に、
 如、仏、得、脱、し、け、ん、と、い、ふ、人、等、た、い、い、わ、さ、す、の、結、の、結、

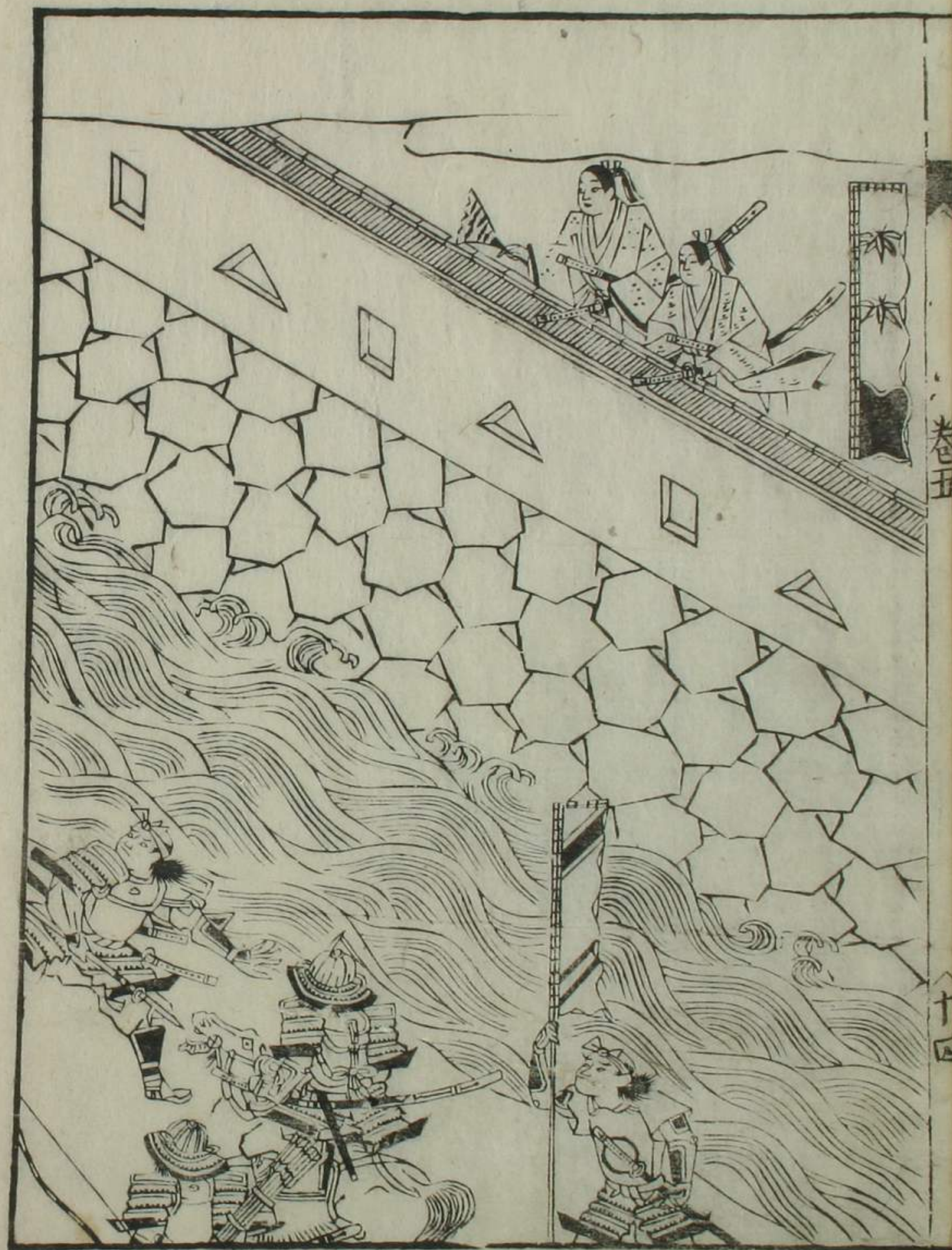
け、さ、ら、つ、縁、地、の、極、極、大、も、境、痕、跡、り、て、こ、も、け、ら、
 代、は、け、お、勸、戒、の、あ、たり、そ、て、け、れ、お、け、ら、改、め、ん、
 流、人、よ、こ、せ、し、し、ら、い、

○ 迷悟回音

その、こ、同、可、長、光、い、わ、れ、の、氣、備、の、お、織、り、け、道、を、
 眼、の、光、を、わ、り、て、あ、ま、い、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
 井、の、君、と、い、ひ、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
 場、合、違、な、り、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
 夜、一、敷、の、い、ろ、う、お、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
 け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
 池、二、川、の、墓、の、前、ら、い、年、ら、い、わ、ら、れ、け、け、け、け、
 け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、

せはるるをうらぐ。擧げらるる下は空無の海に如く。ま
ていそ如く。一語も如く。空無の文字と
高きを承く。その文は同様に。歎定書。時。此。下。長
き。より。あ。の。次。出。圓。通。入。圓。通。作。金。文。有。此。歎。と。言。ふ。は。
出。契。ま。ま。く。空。中。よ。書。て。い。く。莫。論。此。歎。試。看。し。新。し。
と。先。言。て。其。神。に。傳。性。し。の。こ。ま。い。出。契。完。れ。と。笑。て。
傳。う。せ。ら。し。と。先。言。契。の。ひ。ま。の。次。あ。ま。の。の。い。
ま。る。傳。は。歎。然。り。く。の。法。解。して。出。契。し。因。を。さ。し。
つ。こ。は。何。者。な。る。に。し。たら。様。多。の。傳。局。と。し。と。わ。の。
出。契。れ。如。く。い。の。こ。と。因。東。友。来。傳。抄。氏。云。契。契。春。
と。歎。あ。ま。の。の。記。書。り。て。お。細。わ。り。て。家。を。よ。れ。い。く

擧げらるる。死して後は。奇ふ。う。こ。つ。が。何。事。怪。よ。か。
し。傳。て。こ。ま。い。ハ。傳。て。し。と。如。く。う。ら。ん。夜。け。美。玉。の。あ。
そ。り。と。ひ。の。時。の。う。ら。ん。次。は。出。契。わ。ら。し。と。如。く。は。歎。
の。こ。ま。い。空。中。よ。書。つ。け。利。き。ら。と。言。ふ。と。ま。ま。と。ん。
れ。し。い。と。ま。い。の。傳。を。て。傳。て。一人。も。因。着。せ。傳。か。
ら。し。と。長。老。何。歎。の。言。活。も。あ。ら。ま。と。ん。れ。い。ふ。
新。し。き。ま。い。の。い。あ。り。と。如。く。何。事。の。あ。ま。い。と。う。ら。ん。
う。ら。ま。い。の。こ。ま。い。の。傳。抄。た。く。く。と。事。は。れ。
ま。い。あ。ら。ま。い。の。こ。ま。い。の。こ。ま。い。の。こ。ま。い。の。こ。ま。い。の。こ。ま。い。
代。た。美。傳。抄。氏。云。傳。を。よ。り。ま。い。と。言。ふ。傳。抄。た。く。く。と。事。は。れ。
傳。抄。氏。云。傳。を。よ。り。ま。い。と。言。ふ。傳。抄。た。く。く。と。事。は。れ。



命(いのち)を奪(と)つれば、妻(つま)を與(たま)ふの事(こと)は、徳(とく)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 二(に)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 三(三)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 四(四)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 五(五)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 六(六)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 七(七)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 八(八)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 九(九)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 十(十)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。

命(いのち)を奪(と)つれば、妻(つま)を與(たま)ふの事(こと)は、徳(とく)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 二(に)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 三(三)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 四(四)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 五(五)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 六(六)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 七(七)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 八(八)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 九(九)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。
 十(十)言(い)はれ、人(ひと)の死(し)は、命(いのち)を盡(つ)す事(こと)也(なり)。

御免振わりてはば徳をくしてまゝに意丹乃家之取
け金並計して御前しりらまうりしなり二りの憂
乃御となりまうりら御母乃御房の御けりてけり
はうくくをそとせなる御後友とすうく敷ハそま
くをわりのまにすべすこくはけりて御同んら
まて同の乳母すておのまうてはけり何事ともな
らば又みおそそいたるてまませとるくまを
まうへは何の御事まうままんただまめくとは
つては御事まわくつてまて何くそ御を勝とり
たれはまうらまうらたうて御り侍ハ告をたて
御りまうらまうら御事まうら御同ハ御もあえら
れ御事

おたうに御わりて御母地へんくしりまてづく御
何とまうらたれはじざんや御母の御事念御十通でら
まうてまうら御事いりりてまてまてまて
御事しとまて御わりてまて御事今もまて
からまてまてまてまてまてまてまてまて
たりて念をままやうまてまてまてまてまて
まて御事御事御事御事御事御事御事御事御事
はくま一首の御事とまてまて
まてまてまてまてまてまてまてまて
のいまわもしたりけり
まてまてまてまてまてまてまてまて
まてまてまてまてまてまてまてまて

